文化財担当者専門研修「建造物保存活用基礎課程」について

文化遺産部建造物研究室では、行政に所属する文化財担当者が歴史的建造物（文化財建造物）の保存・活用にかかわる基礎知識を修得することを目的として、本年度新たに標記研修事業を企画し、実施しました。

今回、6月20日から24日の5日間、北は北海道から南は鹿児島まで、20名の県や市町村に所属する研修生が奈良文化財研究所に集いました。日本建築史や調査、制度、修理、管理活用等の研修棟での座学のほか、矢田の大和民俗公園で民家、法隆寺で社寺の調査概論、奈良県文化財保存事務所が実施している當麻奥院方丈（たいまおくのいんほうじょう）と當麻寺仁王門の修理工事現場で保存修理についての臨地講義をおこないました。行政の文化財担当者でも実際の建造物修理現場を見学することは稀なので、特に當麻寺では修理にかかわる技術者や大工さんの話を皆さん大変興味を持って聞いていました。

建造物研究室にとって初めての主催研修であり、研修生が大勢であったこともあって、不慣れな点が多々あったのですが、研究支援推進部の援助を得てなんとか所期の目的を達成できたのではないかと思っています。

今回、現場が奈良県ということもあって、研修内容は近世以前の主として木造建築にかんすることが多かったのですが、研修生が実際に実務として携わるのは近代建築が多いので、次回以降は近代建築に焦点を当てた研修プログラムを工夫しようかと考えています。

（文化遺産部　林 良彦）

當麻奥院での研修風景（奈良県文化財保存事務所山下技師による奥院方丈の瓦の説明）

真空凍結乾燥機の現地公開を実施

被災文化財等救援委員会では、東日本大震災で被災した水損文書類の救援にも取り組んでいます。水損文書類は、カビが生えたり、場合によっては腐敗してしまうため、できる限り早急に回収し、乾燥させる必要があります。乾燥させるには、風乾や真空凍結乾燥機による処置がありますが、大量の水損文書類を処置するためには時間がかかってしまうため、救援委員会では、一時的な保管手段として、奈良市場冷蔵株式会社の協力を得て、回収された水損文書類を冷凍し、順次、乾燥をおこなっています。

そうしたなか、奈良文化財研究所では、文化財レスキュー事業の一環として、救援委員会の要請を受け、水損文書類を真空凍結乾燥機を使って、乾燥させる作業をおこなっています。

この文化財レスキュー事業に、より理解を深めていただくため、7月12日および26日に真空凍結乾燥機の現地公開をおこないました。事前に新聞やウェブサイト等で募集したところ、募集開始初日で予定を上回る申し込みがある等、文化財保護への関心の高さに驚かされました。

現地公開は、1回の参加者を20名とし、約30分間で実施しました。参加者は、高妻洋成保存修復科学研究室長から、水損文書類の早急な救出の必要性や真空凍結乾燥の仕組み等について詳しく説明を受け、その後、真空凍結乾燥機に設けられている監視用の窓から内部の様子を交代で見学するとともに、すでに凍結乾燥を終えている文書類を見学しました。参加者からは、乾燥後の修復作業方法や今後の文化財レスキュー事業について多くの質問等が寄せられました。

今後も、可能な範囲で現地公開等をおこなうことで、文化財保護の普及・啓発にも取り組んでいきたいと考えています。（研究支援推進部　田中 康成）

真空凍結乾燥の説明を受ける参加者